出穂期は平年より３日程度早い見込み

異常気象に対応した後期栄養対策で高品質米確保！

～異常気象に備えたコンパクトなイネづくり「適正籾数で登熟向上」！～

巻農業普及指導センター

＊＊＊重点ポイント＊＊＊

○出穂期が平年より早い見込みのため、幼穂長と葉色を確認して適期に穂肥を施用
○全量基肥栽培では飽水管理で肥効を促し、出穂期 10～３日前に追肥の要否を判断
○生育状況と気象予報を考慮し、後期栄養を確保する穂肥対応と水管理を実施
○カメムシ類による斑点米発生防止のため、除草と適期の本田薬剤防除を実施

１　生育状況

７月１日現在のコシヒカリ生育は指標値と比べ、
草丈「やや長い」、茎数「やや少ない」、葉数「並」、葉色「並」

水稲生育調査結果（７月１日現在）

品種名	草丈（cm）		茎数（本/㎡）		葉数（L）		葉色（SPAD）	
	本年値	指標比	本年値	指標比	本年値	指標差	本年値	指標差
コシヒカリ	61	109	449	94	10.4	0.2	38.7	-0.3
こしいぶき	59	109	500	94	10.8	0.2	41.5	3.5

コシヒカリは管内 19 ほ場、こしいぶきは管内５ほ場の平均値

２　出穂期予想と穂肥施用

＜幼穂形成期・出穂期の予想と穂肥の目安＞　※５月第１半旬田植え（直播は播種日）での予想　注 2

品種名	幼穂形成期注 1 月/日	出穂期 月/日	穂肥時期　月/日(出穂期前日数)		２回目穂肥時期の葉色めやす (SPAD)	２回合計の施用量 注 3 N 成分 kg/10a
			１回目	２回目		
五百万石	6/24	7/17	6/27(20)	7/5(12)	38	1.0～2.0
わたぼうし	6/26	7/19	6/27～29(22～20)	7/7～9(12～10)	38	2.0～3.0
ゆきん子舞	6/27	7/20	6/25～27(25～23)	7/6(14)	36～38	4.0～6.0
こしいぶき	6/29	7/22	6/29(23)	7/8(14)	36.5	2.0
こがねもち	7/5	7/28	7/10～13(18～15)	7/18(10)	32	1.0～3.0
連休植コシヒカリ	7/9	8/1	7/14～17(18～15)	7/22(10)	32	1.0～3.0
5/10 植コシヒカリ	7/11	8/3	7/16～19(18～15)	7/24(10)	32	1.0～3.0
直播コシヒカリ	7/15	8/7	7/20～23(18～15)	7/28(10)	32	1.0～3.0

注 1: 幼穂形成期は幼穂長１ｍｍを超える茎が調査区全体の８割以上を占めた日で、出穂期の 23 日前頃。
注 2: 幼穂形成期・出穂期予想は、天候により前後するので、ほ場ごとに幼穂や生育状況をよく確認する。
　　移植日が５日前後すると幼穂形成期・出穂期は１～２日前後する。
注 3: 砂壌土などの地力の低いほ場では、窒素成分で１kg/10a 程度多めに施用する。

YouTube「新潟市西蒲区・西区水稲栽培技術情報　令和６年度夏版」を今後の管理の参考に！
“巻農業振興部“ でホームページを検索！

3　コシヒカリの穂肥対応　～１回目の穂肥は草丈と葉色を確認～

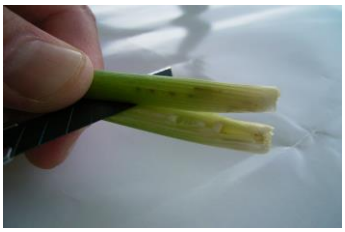
（１）コシヒカリの穂肥診断　～穂肥は幼穂を必ず確認し適期に施用！～

１回目穂肥時の生育量の目安

	コシヒカリ(出穂前 18 日)	注意点
幼穂長 草　丈 葉　色	1 cm 78 cm　以下 34（SPAD 値）以下	これより長草・葉色濃い場合は、遅め・控えめの施用、または施用しない。

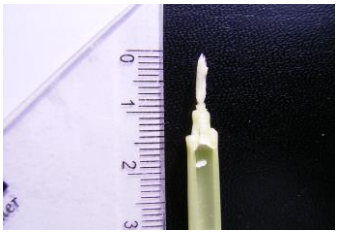
幼穂長と出穂前日数（コシヒカリ）

出穂前日数	幼穂長
30 日前	0.02 cm
24 日前	0.1 cm
20 日前	0.2～0.4 cm
18 日前	0.5～1.0 cm



確認

〔幼穂の確認方法〕



※写真は 1cm(ｺｼﾋｶﾘ)

（２）穂肥施用のポイント

ア　分施施肥栽培の１，２回目穂肥

○　１回目の穂肥施用は、幼穂長、草丈、葉色を確認し、施用しない対応も含め、施用時期と施用量を決定する。

○　２回目の穂肥は、出穂 10 日前（１回目穂肥を遅らせた場合は１回目の７日後）に窒素成分 1.5kg/10a 程度を施用する。

イ　後期栄養確保の対策（分施栽培、全量基肥施肥栽培とも）

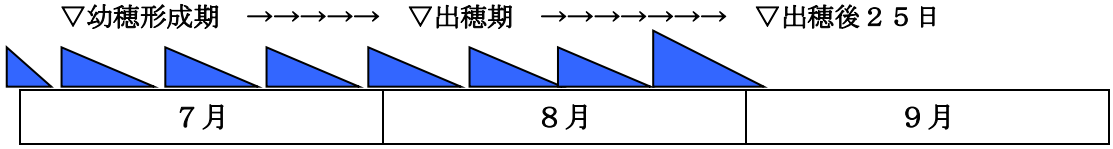
○　気象予報や葉色の推移を考慮し、出穂期の葉色が SPAD 値 32(葉色板・単葉：4.2)を下回ると予想される場合は、出穂期頃までに窒素成分で１～1.5kg/10a 程度を追肥する。
　特に、登熟期間が高温・多照予報の場合は、栄養不足にならないよう注意する。

○　流し込み肥料などの省力化肥料の利用も含め、後期栄養不足にならないよう必ず施用する。

4　水管理　　～早期落水厳禁。品質重視の水管理を徹底！～

○幼穂形成期以降、出穂後 25 日までは確実に飽水管理を継続し、登熟向上を促す。
○フェーンや異常高温が予想される時は予め湛水し、障害の発生を防止する。
○出穂期の遅いほ場は、最終かん水で十分湛水し、飽水管理を出穂後 25 日まで継続する。

●コシヒカリの水管理イメージ



※中干し後は間断かん水を行い、徐々に飽水管理に移行する。

5　斑点米カメムシ対策　～暖冬・少雪年は、虫の越冬数が多く要注意～

○除草：早生品種の出穂前に農道・畦畔の草刈りを必ず行う。その後も雑草が結実しないよう、こまめな除草を継続する。虫の増殖場所となる本田内のヒエやホタルイも除草を徹底する。

○防除：薬剤防除は出穂期３～７日後に、ほ場全面へ散布を行う。
水面施用粒剤は、水深３cm程度の浅水条件で散布し、散布後は飽水管理を徹底する。
※無人ヘリの防除日が出穂期から 10 日以上空くほ場は、上記防除を追加する。

〔参考資料〕

表１　コシヒカリにおける生育時期別の葉緑素計（SPAD502）と葉色カラースケールの読替表

葉緑素計（SPAD502）	葉色カラースケール					
	単葉			群落		
	出穂前24～21日	出穂前14～12日	出穂期	出穂前24～21日	出穂前14～12日	出穂期
25	2.7	3.1	2.7	1.7	1.8	1.9
26	2.9	3.3	2.9	1.9	2.0	2.1
27	3.1	3.4	3.2	2.1	2.2	2.3
28	3.2	3.6	3.4	2.2	2.4	2.5
29	3.4	3.7	3.6	2.4	2.6	2.7
30	3.6	3.9	3.8	2.6	2.8	2.9
31	3.7	4.0	4.0	2.8	3.0	3.1
32	3.9	4.2	4.3	2.9	3.2	3.3
33	4.1	4.3	4.5	3.1	3.4	3.5
34	4.2	4.5	4.7	3.3	3.6	3.8
35	4.4	4.6	4.9	3.5	3.8	4.0
36	4.6	4.8	5.1	3.6	4.0	4.2
37	4.7	4.9	5.4	3.8	4.1	4.4
38	4.9	5.1	5.6	4.0	4.3	4.6
39	5.1	5.2		4.2	4.5	
40	5.2	5.4		4.3	4.7	
41	5.4	5.5		4.5	4.9	
42	5.6	5.7		4.7	5.1	

※　作物研究センターのコシヒカリを用い、H18、19、21年のデータから作成。

※　他品種では検証していないので使用しない。